

「やったー！」

昨年十二月二十四日、二学期終業の日のことです。翌日から冬休み、でも、これまでの冬休みとは大きな違いがありました。家へと向かう私のわくわく感、自転車をごく足へと伝わり、前へ前へと踏み進めていました。

「ただいま！」

家の奥からたくさんの

「おかえり。」

そうです。この日は、親戚がたくさん帰ってくる日だったのです。そのうえ、いところが、スウェーデンから友達を連れてきたのです。他県から、そして外国から、総勢十一名で新年を迎えることとなりました。

次の日、みんなでおそばを食べに行きました。スウェーデン人の彼は、お箸が上手に使い、美味しそうに食べていました。お味噌汁が好きで、スポーツが好きで、日本のゲームやアニメが好きだと、いところが通訳をして教えてくれました。彼の国スウェーデンの話もたくさん聞きました。一番驚いたのは、スウェーデンでは、買い物に行った際の消費税が二十五%だということでした。そのとき私は「消費税がそんなに高かったら、ものの値段が高くなり、大変なのは。」と思いました。しかし彼は、そんなに大変ではないと言います。スウェーデンでは、消費税率が高い代わりに、小学校から大学までの教育費が無料だったり、十八歳までの医療費が無料だったりするそうです。また、福祉や介護も充実していて、とても生活しやすいのだそうです。税金がこのように使われる国があることを知り、日本はどうなのだろうと考えてみました。学校の授業で、現在の日本は高齢化が進み、高齢者の方々が安心して生活するためには、多くの費用が必要で、その中心は税金だということ、一方で少子化が進み、税金を納める人が少なくなっていることを学びました。スウェーデンでは、育児休業制度に力を入れ、一度落ち込んだ出生率を上げることに成功していました。両親合わせて四百八十日もの休業給付があるのだそうです。スウェーデンでは、こうした税金の使い方、子どもを育てやすい環境を作り、少子化を食い止めたのです。

これからの日本は、暮らしやすい環境を作るために、スウェーデンから学ぶことがあるのかもしれない。スウェーデン人の彼に会わなければ、こんなにも税金に興味をもったり、調べたりすることはなかったのかもしれない。様々な税金のあり方を知ることができ、とても充実したお正月になりました。

いつか、消費税が「笑日税」になり、日本国民すべてが、笑顔あふれる日々を送ることができるよう、税についての知識を深め、しっかり税金を納めていきたいと思います。